

令和5年度 第2回駒ヶ根市地域公共交通協議会 次第

【日 時】令和6年2月7日（水）午前11時～

【場 所】駒ヶ根市役所 保健センター2階 大会議室

1 開 会

2 委員の委嘱について

3 会長あいさつ

4 協議事項

(1) 令和5年度山麓周遊バス実証実験事業の報告 資料1

(2) 令和6年度山麓周遊バス実証実験事業の方針 資料2

5 報告事項

(1) 中沢オーライ、ちょこっとお助け東伊那の運行について

6 その他

7 閉 会

令和5年度駒ヶ根市地域公共交通協議会 委員名簿

協議会役職	委員	氏名	役職	備考
会長	駒ヶ根市	伊藤 祐三	市長	
副会長	駒ヶ根商工会議所	春日 俊也	副会頭	商工
	伊那バス株式会社	藤澤 洋二	代表取締役社長	バス事業者
	中央アルプス観光株式会社	伊東 俊弘	自動車事業部長	バス事業者
	伊南乗用自動車有限会社	久保田 武彦	代表取締役	バス事業者・県タクシー協会
	赤穂タクシー有限会社	坂元 洋	代表取締役	県タクシー協会
	こまくさ観光株式会社	岩本 光市	代表取締役	バス事業者
	長野県伊那建設事務所	長谷川 哲郎	維持管理課長	道路管理者
	駒ヶ根警察署	和田 直	署長	公安・警察
	駒ヶ根市区長会 上赤須区長	佐藤 昌利	上赤須区長	地域代表
	駒ヶ根市区長会 町2区長	平澤 健治	町2区区長	地域代表
監事	駒ヶ根市区長会 中沢区長	竹村 真春	中沢区区長	地域代表
	駒ヶ根市高齢者クラブ連合会	下平 正躬	交通安全防犯対策部長	利用者
	市民委員	村瀬 俊幸		利用者
	市民委員	肥野 みさを		利用者
	伊那バス労働組合	鈴木 正満	組織部長	労働団体
監事	駒ヶ根観光協会	小原 昌美	事務局長	観光
	駒ヶ根市社会福祉協議会	堀越 晃滋	次長	福祉
	国土交通省 北陸信越運輸局	新倉 孝礼	交通企画課長	地方運輸局
	国土交通省 北陸信越運輸局長野運輸支局	山岸 康範	首席運輸企画専門官	地方運輸局
	長野県企画振興部交通政策局	丸山 正徳	交通政策課長	長野県
	長野県上伊那地域振興局	鳥羽 秀行	企画振興課長	長野県

(22名)

関係職員	駒ヶ根市総務部	吉澤 一義	総務部長	所管部
関係職員	駒ヶ根市建設部	宮下 佳和	建設課長	道路管理者
関係職員	駒ヶ根市民生部	野村 隆二	福祉課長	福祉所管課
関係職員	駒ヶ根市民生部	北原 純	地域保健課長	地域保健所轄課
関係職員	駒ヶ根市教育委員会	赤羽 知道	子ども課長	小中学校所管課

事務局長	駒ヶ根市総務部企画振興課	久保田 浩人	企画振興課長	所管課
事務局員	駒ヶ根市総務部企画振興課	小池 貴彦	地域政策係長	所管課
事務局員	駒ヶ根市総務部企画振興課	唐澤 恵介	地域政策係	所管課

任期：令和5年6月22日～令和7年3月31日

※任期中に役職が代わった場合には残任期間を後任が引き継ぐ

令和5年度
駒ヶ根市 山麓周遊バス実証実験
評価検証業務

報告書(案)

令和6年1月

～目 次～

1. 実証事業の概要	1
2. 利用実績	3
3. 利用者アンケート調査	9
3.1 調査の概要	9
3.2 調査結果	10
3.2.1 回答者の属性や来訪形態	10
3.2.2 周遊バスの利用状況	13
3.2.3 運賃・支払い方法	16
3.2.4 周遊バスに対する評価	18
4. 施設ヒアリング調査	22
4.1 調査の概要	22
4.2 調査結果	22
4.2.1 養命酒 駒ヶ根工場	22
4.2.2 ビアンデさくら亭	23
4.2.3 北川製菓	24
5. 運行事業者ヒアリング調査	25
5.1 調査の概要	25
5.2 調査結果	25
6. 今年度事業の総括と今後の課題	27
6.1 今年度事業の総括	27
6.2 今後の課題	28

1. 実証事業の概要

(1) 事業の目的・ねらい

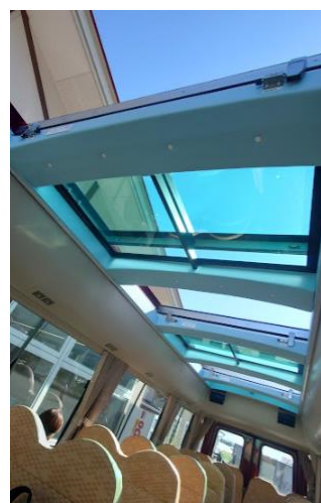
駒ヶ根市では、令和2年度に「駒ヶ根市地域公共交通計画」を策定しており、この計画のなかでは、市の観光拠点である駒ヶ根高原エリアの周遊・滞在の促進を図るために、新たな公共交通の仕組みを導入することを掲げている。中央アルプスの山麓であることから、環境に配慮した車両としていくことも掲げており、令和3年度においては、グリーンスローモビリティによる実証を行い、令和4年度には低床型の小型EVバス車両を用いて行き、一定の成果を上げたところである。

本年度は、この取り組みをさらに進め、有償運行に移行し、運行範囲などもさらに拡大したかたちでの実証実験を行った。この報告書は、この実証事業の評価検証を行い、次年度以降の本格運行の可能性などを検討したものである。

(2) 実証事業の概要

項目	内容
運行期間	令和5年7月1日(土)～10月31日(火) 4ヶ月 123日間 期間中は平日・休日問わず日中運行
起終点・運行範囲	駒ヶ根高原周辺 (ピアンデさくら亭を起点として宮田村の北川製菓・マルスウィスキーから菅の台周辺を経て養命酒工場の範囲) ※次頁「路線図・時刻表」参照
運行時刻・ダイヤ	10時台～14時台 1日4便 平日・休日ともに同じダイヤとした。 ※次頁「路線図・時刻表」参照
使用車両	24人乗りマイクロバス(オープントップの改造を施した車両)
運行事業者	こまくさ観光株式会社
事業形態・運賃	道路運送法21条許可に基づく実証運行 1回200円 1日券500円(子ども半額) PayPay、D払い、auPAY、メルペイでの支払いも可能とした。

■使用車両



■ 路線図・時刻表



停留所	第1便	第2便	第3便	第4便
① ピアンデさくら亭	10:45	11:45	12:45	13:45
② 北川製菓 ル・ノール・リヴィエール	10:53	11:53	12:53	13:53
③ マルス信州蒸溜所	10:56	11:56	12:56	13:56
④ 駒ヶ根ファームス	11:02	12:02	13:02	14:02
⑤ 光前寺	11:06	12:06	13:06	14:06
⑥ 家族旅行村 露天こぶしの湯	11:11	12:11	13:11	14:11
⑦ 養命酒 駒ヶ根工場	11:23	12:23	13:23	14:23
① ピアンデさくら亭	11:34	12:34	13:34	14:34

出典：さんさんバス時刻表パンフレット

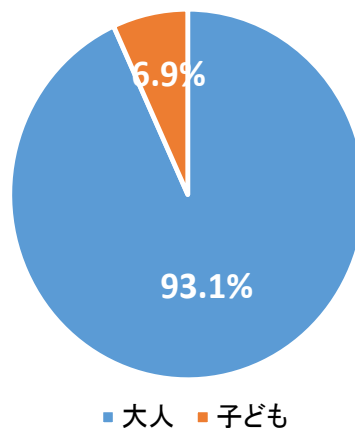
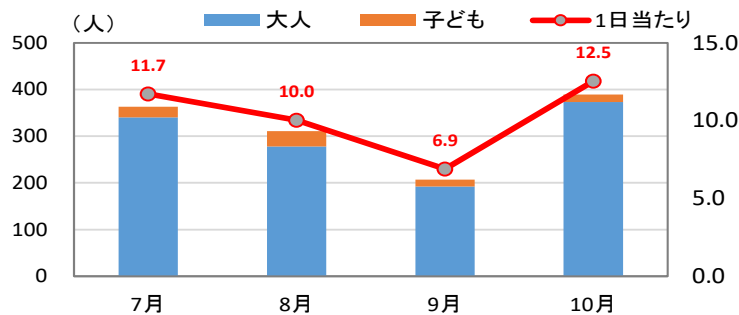
2. 利用実績

(1) 利用実績全体

- 4ヶ月の実証期間を通じた利用者数は1,270となった。
- 1日あたりに換算すると10.3人となる。
- 基本的には、出発地から乗り込んで、目的施設を利用してまた出発地に戻るケースが多いことから、少なくとも1人2回の利用、また、複数の目的施設を利用する方もいるため、1人平均2.5回の利用を想定すると、実利用者数は500人程度と見込まれる。
- 123日間の運行であったため、1日あたりの実利用者数は4人程度とみられる。
- 月別の変動をみると、7月と10月が多く、10月は前月9月の1.9倍に増加している。
- 天候が良かったことと紅葉を楽しみに訪れた観光客が多かったものとみられる。
- 子どもの利用は全体の7%と少なかった。

	大人	子ども	合計	1日当たり
7月	340	23	363	11.7
8月	278	33	311	10.0
9月	192	15	207	6.9
10月	373	16	389	12.5
合計	1,183	87	1,270	10.3

【A】乗降者数



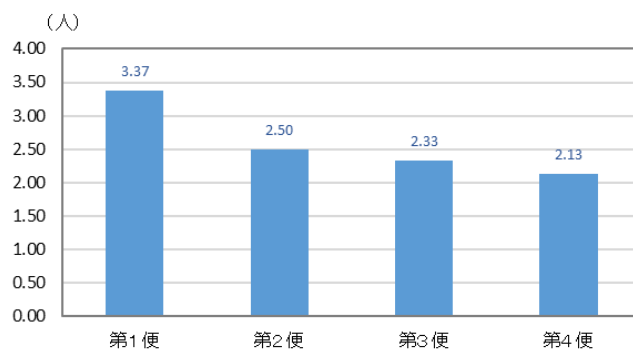
(2) 便別利用実績

- 1 便あたりの利用人数は、第1 便が最も多く、2 便、3 便、4 便の順に少なくなっている。
- 乗降別にみると、乗車人数は上記の傾向であるが、降車に関しては、第2 便が最も少なく、その後、第3 便、第4 便と増加する傾向がみられる。

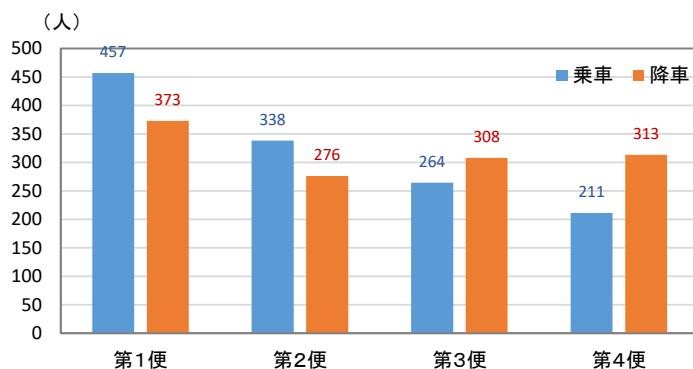
	7月		8月		9月	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
第1便	119	106	117	88	82	74
第2便	70	72	83	84	63	45
第3便	97	68	59	64	31	47
第4便	77	117	52	75	31	41
合計	363	363	311	311	207	207

10月		合計		1便あたり人数
乗車	降車	乗車	降車	
139	105	457	373	3.37
122	75	338	276	2.50
77	129	264	308	2.33
51	80	211	313	2.13
389	389	1270	1270	10.33

【1便あたり平均利用者数】



【便別乗降人数(期間合計)】

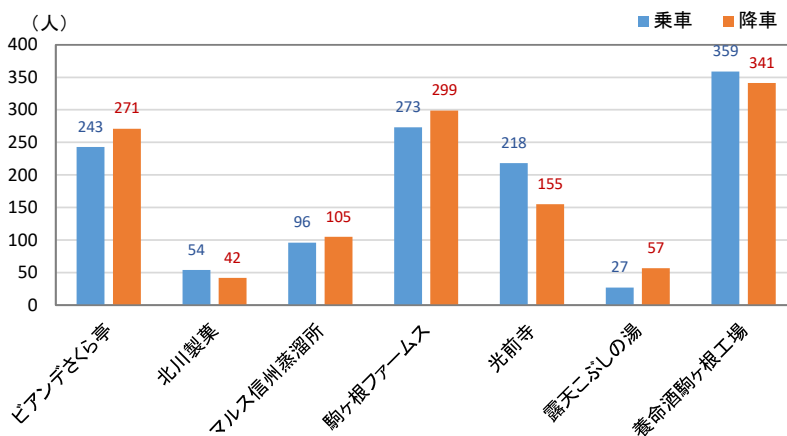


(3) 停留所別乗降者数

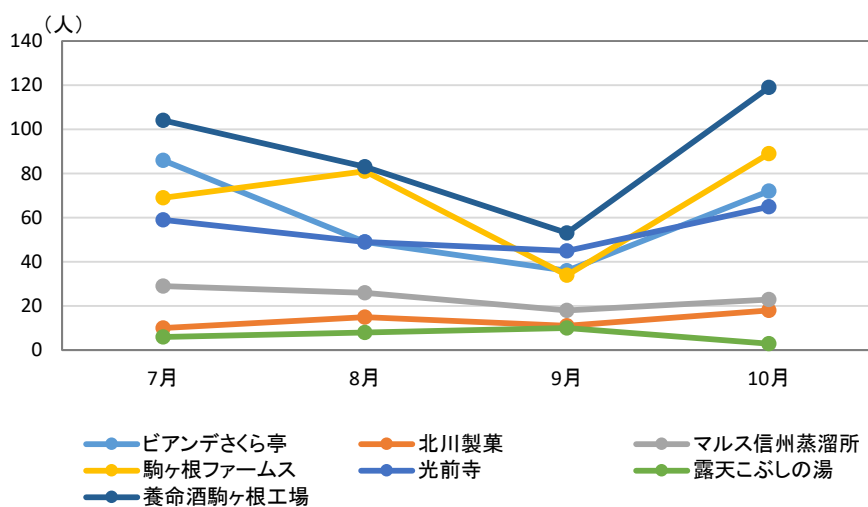
○バス停別の乗降人数をみると、乗降ともに養命酒駒ヶ根工場が最も多く、次いで駒ヶ根ファームス、ビアンデさくら亭の順になっている。

○北川製菓、露天こぶしの湯の利用は少ない状況であった。

【バス停別利用者数】



【バス停別利用者数の月別推移】



(4) 運賃収入

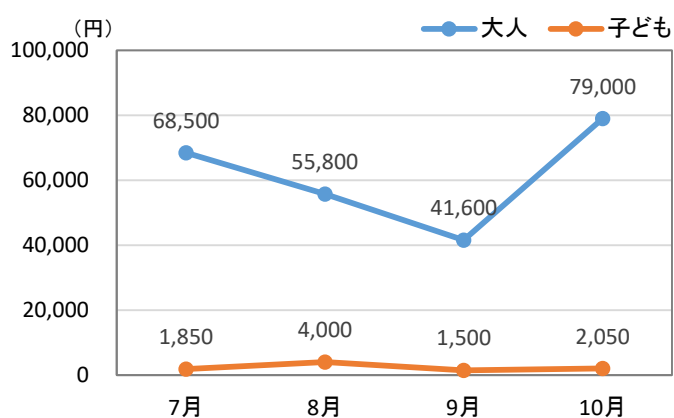
○期間合計の運賃収入は25万4千円となった。

○月別の推移は利用者数の変動と概ね同様である。

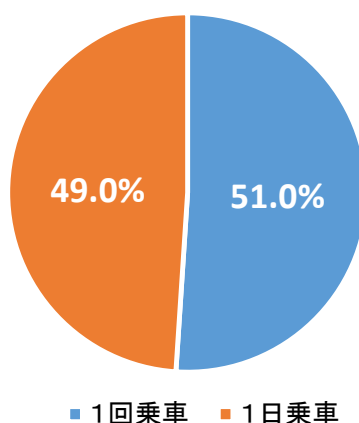
○運賃種別としては、1回ずつ支払いと1日乗車券がほぼ同数であるが、若干1回乗車のほうが多いかたちとなった。

【月別の運賃収入推移】

	7月	8月	9月	10月	合計
大人	68,500	55,800	41,600	79,000	244,900
子ども	1,850	4,000	1,500	2,050	9,400
計	70,350	59,800	43,100	81,050	254,300



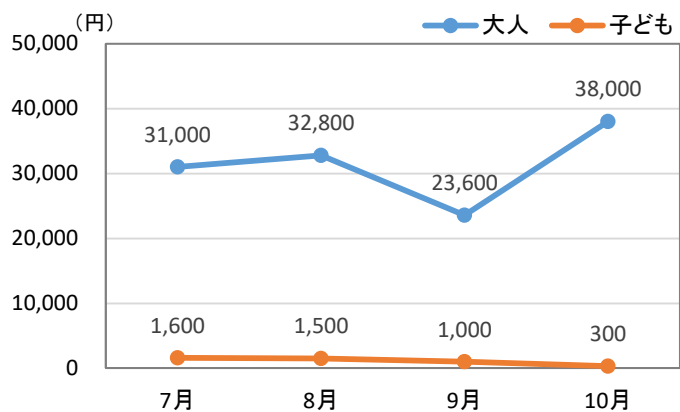
【運賃種別割合】



○1回ごと支払いと1日乗車券の収入を月別の収入を比べると、8月がとくに1回ごと支払いの比率が高いことがわかる。

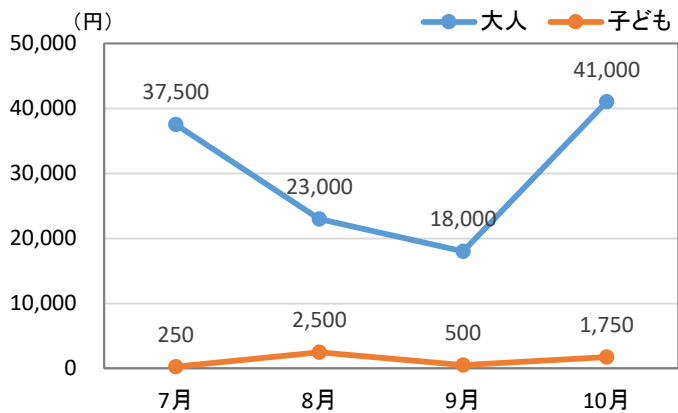
【1回ごと支払い】

	7月	8月	9月	10月	合計
大人	31,000	32,800	23,600	38,000	125,400
子ども	1,600	1,500	1,000	300	4,400
計	32,600	34,300	24,600	38,300	129,800



【1日乗車券】

	7月	8月	9月	10月	合計
大人	37,500	23,000	18,000	41,000	119,500
子ども	250	2,500	500	1,750	5,000
計	37,750	25,500	18,500	42,750	124,500



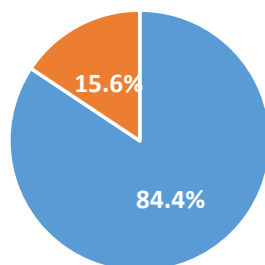
(5) キャッシュレス決済の状況

○QRコードによるキャッシュレス決済を導入したが、QR決済の占める割合は1回ごと支払いで16%、1日乗車券で10%となった。

【1回ごと支払い】

現金	7月	8月	9月	10月	合計
大人	135	136	99	164	534
子ども	12	15	3	2	32
計	147	151	102	166	566

QR	7月	8月	9月	10月	合計
大人	20	28	19	26	93
子ども	4	0	7	1	12
計	24	28	26	27	105

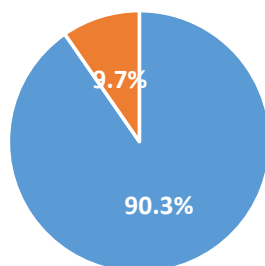


■ 現金 ■ QR

【1日乗車券】

現金	7月	8月	9月	10月	合計
大人	71	36	34	77	218
子ども	1	9	0	6	16
計	72	45	34	83	234

QR	7月	8月	9月	10月	合計
大人	4	10	2	5	21
子ども	0	1	2	1	4
計	4	11	4	6	25



■ 現金 ■ QR

3. 利用者アンケート調査

3.1 調査の概要

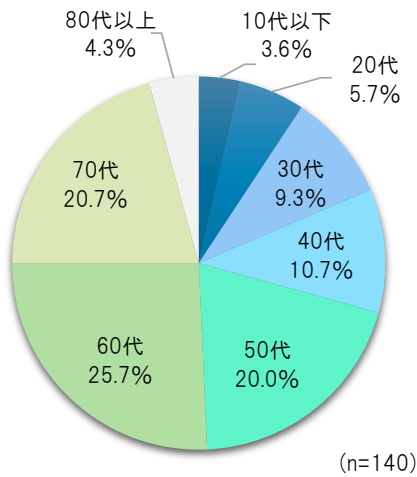
調査目的	周遊バスの利用者に対して、本実証事業の内容について評価してもらおうとともに、寄せられた意見などを集約し、本格運行に活かすものとした。
調査期間	2023年7月1日(土)～10月31日(火) さんさんバス実証運行期間を通じて随時実施
調査対象者	さんさんバス利用者
調査方法	運転手からの呼びかけに応じて、利用者が車内に設けた設置箱から調査票を抜き取り、記載後、バス車内もしくは観光案内所に設置した回収ボックスに投函してもらった。 調査票に印刷したQRコードからスマートフォンでも回答を可能にした。
有効回答数	143票（うちインターネット回答35）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・個人属性（性別、年齢、居住地、同行者等）・利用形態（利用した便、利用目的など）・周遊バスの認知媒体・周遊バスに対する項目別の評価・運賃支払い方法・自由意見 等

3.2 調査結果

3.2.1 回答者の属性や来訪形態

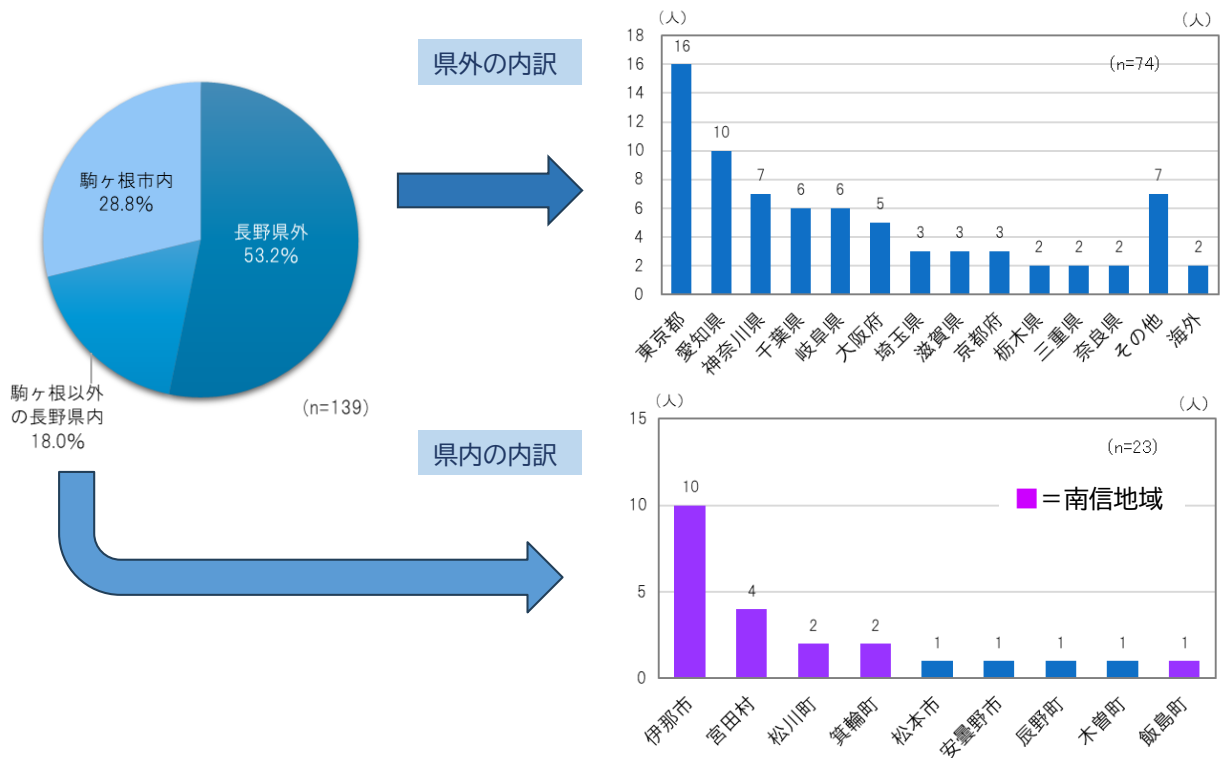
(1) 回答者の年齢

- 60代が最も多く 25.7%となっている。
- その前後、50代~70代で全体の全体の約 2/3 を占めている。



(2) 回答者の居住地

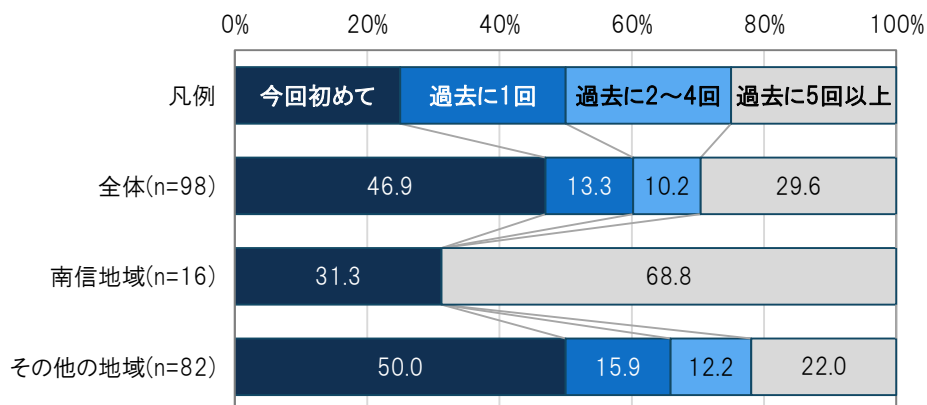
- 長野県外からの来訪が最も多く、半数以上を占めた。
- 県内については、その6割が地元の駒ヶ根市民となった。
- 県外の内訳としては、東京、神奈川、千葉、埼玉の首都圏で全体の 43%、愛知、岐阜、三重の中京圏が 24%、大阪、京都、奈良、滋賀の近畿圏が 18%となった。
- 海外居住者も数人みられた。



(3) 駒ヶ根への来訪回数

○県外やその他の地域では半数が「今回初めて」との回答であった。逆にみれば、半数がリピーターということもいえる。

○南信地域（駒ヶ根以外）の回答者においては69%が「過去に5回以上」という回答であった。

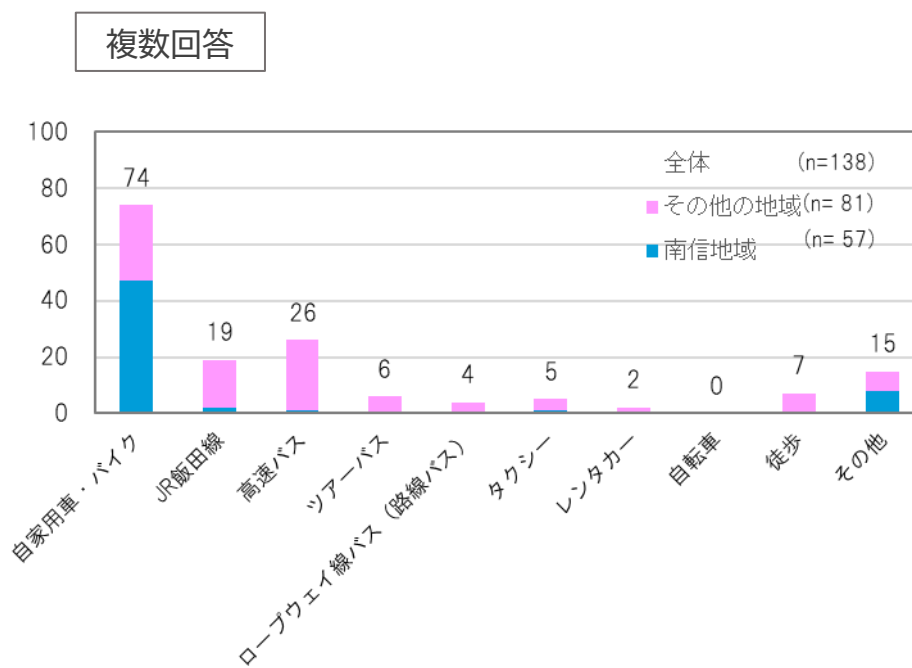


(4) 駒ヶ根までの交通手段

○全体として「自家用車・バイク」が最も多くなっている。とくに南信地域については大半が「自家用車・バイク」となっている。

○その他地域については、「高速バス」、「JR飯田線」も多くみられる。

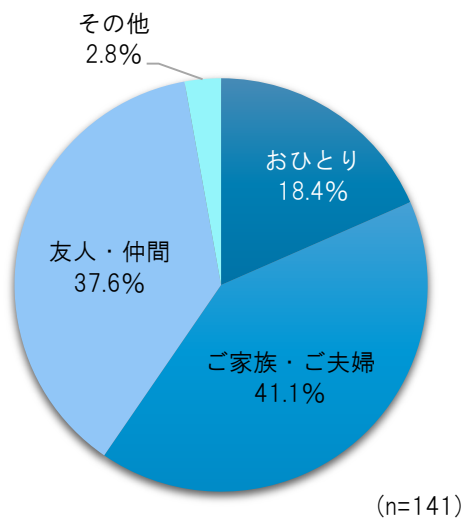
○その他の交通手段の内容としては、「登山ツアーの貸切バス」という回答もみられた。



(5) 同行者等

○家族での来訪が41%で最も多く、次いで友達38%となっている。

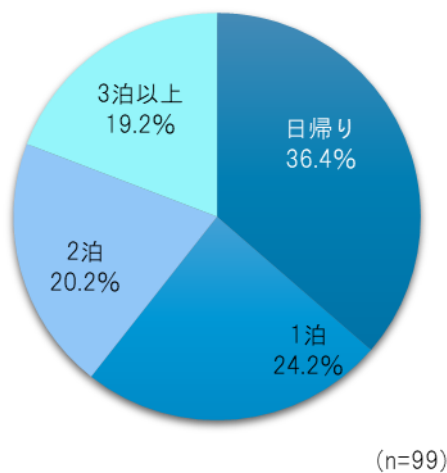
○ひとりで来られた方も18%いることがわかる。



(6) 宿泊の有無

○市外からの来訪者に宿泊の有無を尋ねたところ、64%が宿泊ありとなった。南信地域以外でみると75%が宿泊ありとさらに高くなっている。

○宿泊日数の内訳としては、1泊が最も多いものの、2泊以上が約40%、3泊以上でも約20%と長い旅行が多いことがわかる。

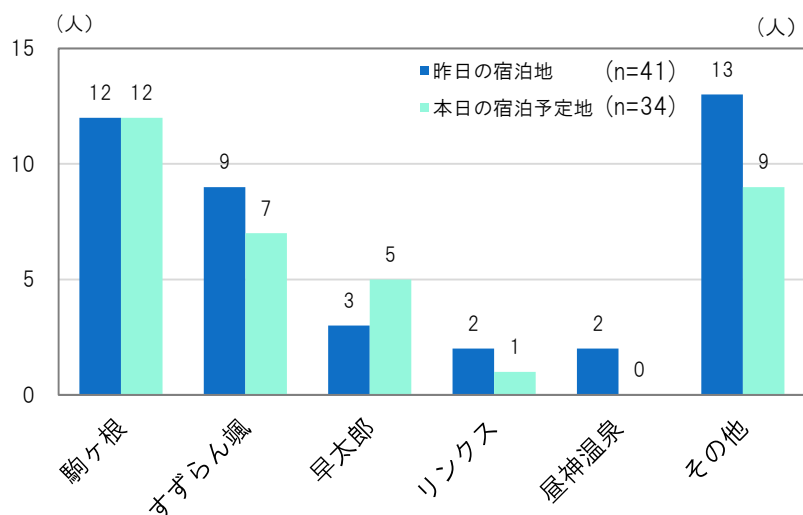


	全体		南信地域		その他の地域	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
日帰り	36	36.4	15	93.8	21	25.3
1泊	24	24.2	1	6.3	23	27.7
2泊	20	20.2	0	0.0	20	24.1
3泊以上	19	19.2	0	0.0	19	22.9
合計	99	100.0	16	100.0	83	100.0

(7) 宿泊地

○周遊バス利用者は、今晚宿泊するというパターンよりは、昨晚宿泊して本日山麓で観光しているというパターンのほうが若干多いがほぼ同程度といえる。

○宿泊地としては、回答者の68%が駒ヶ根市内で宿泊している。

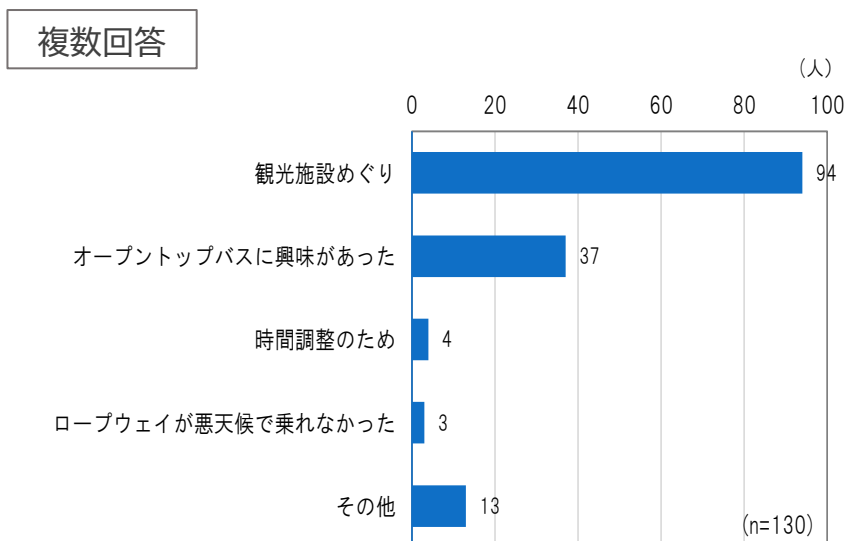


3.2.2 周遊バスの利用状況

(1) バスの利用目的

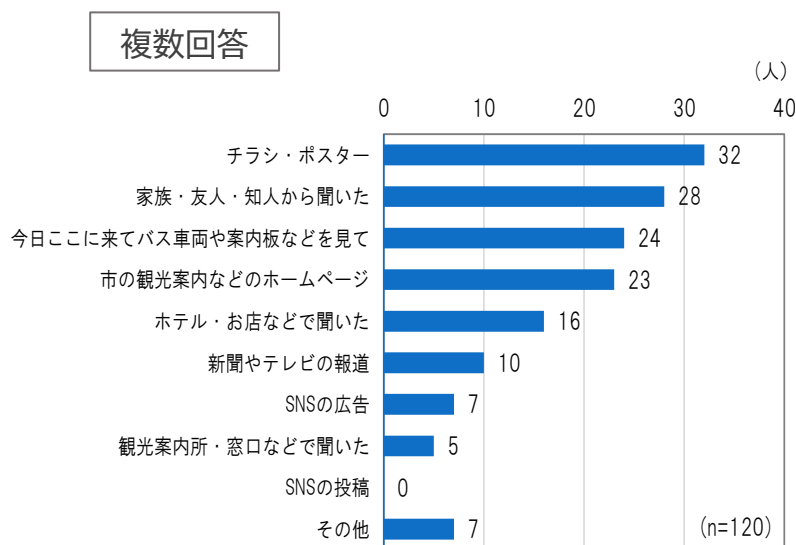
○「観光施設めぐり」が最も多く94人、次いで「オープントップバスに興味があった」が37人であった。

○「ロープウェイが悪天候で乗れなかった」「時間調整」という回答も少ないながらみられた。



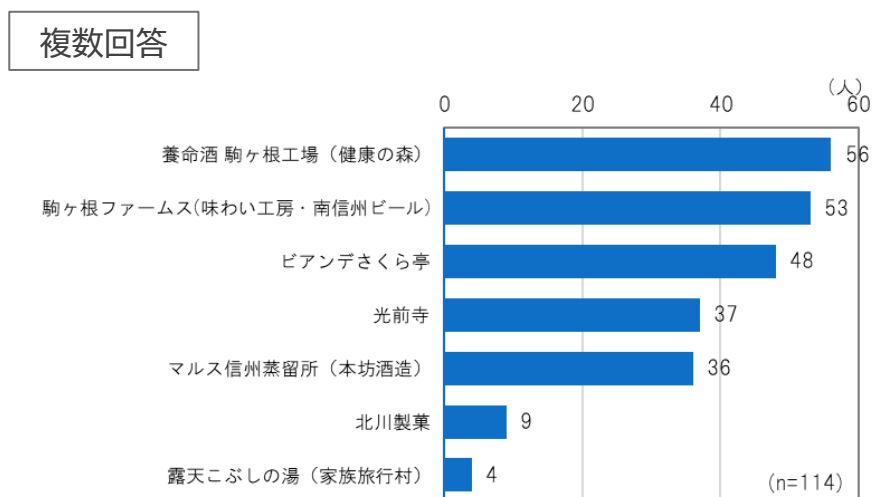
(2) バスを利用したきっかけ

- 「チラシ・ポスター」が最も多く、次いで「家族・友人・知人から聞いた」、「今日ここに来てバス車両や案内板などを見て」、「市の観光案内などのホームページ」が上位となっている。
- 「その他」の内容としては、「市のLINE」や、「Google マップ」というものもみられた。



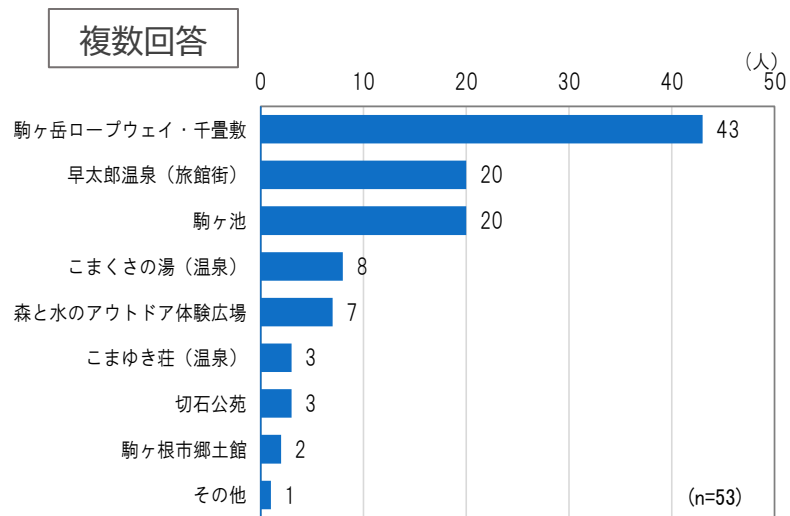
(3) 利用したバス停

- 「養命酒」、「駒ヶ根ファームス」、「ビアンデさくら亭」が上位となっている。
- 設定したバス停のなかでは、「北川製菓」と「露天こぶしの湯」が少ない結果となった。



(4)バス停設置箇所以外の来訪施設

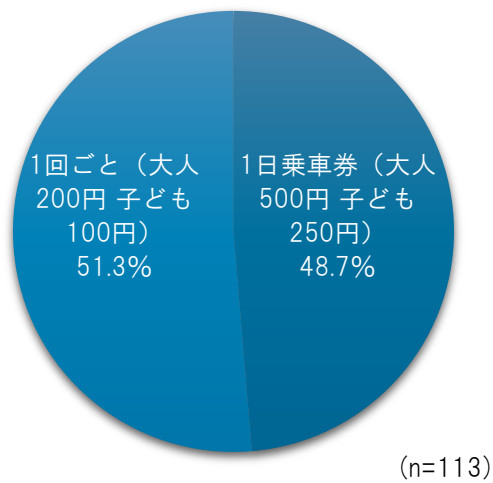
○「駒ヶ岳ロープウェイ」が最も多く、次いで「早太郎温泉」「駒ヶ池」が多い結果となった。



3.2.3 運賃・支払い方法

(1) 運賃の種別

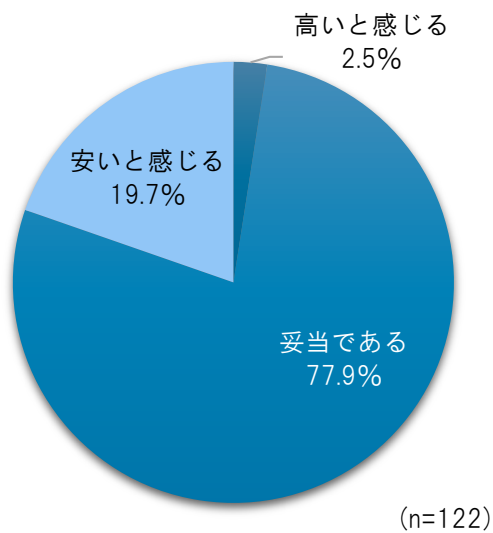
○「1日乗車券」と「1回ごと支払い」がほぼ半々となった。



(2) 運賃の多寡の感覚

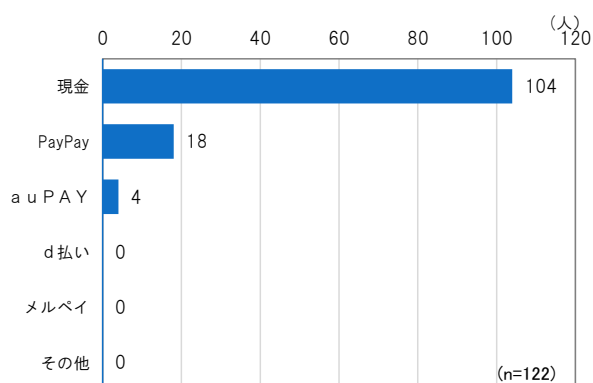
○「妥当」との回答が78%と最も多くなっており、「安い」という回答も2割程度みられた。

○「高いと感じる」との回答は2.5%とほとんどみられなかった。



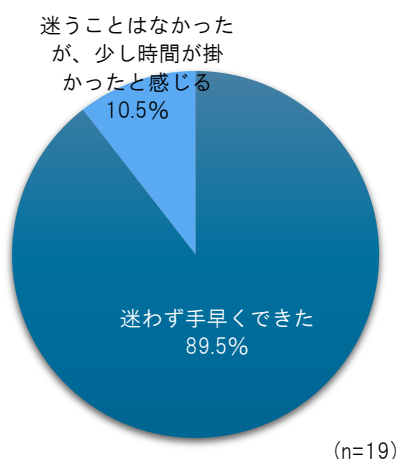
(3)現金・キャッシュレスの種別

- 「現金」が最も多く 104 人で、「PayPay」が 18 人、「auPAY」が 4 人となった。
- アンケート回答者におけるキャッシュレスの利用率は 17.4%となった。



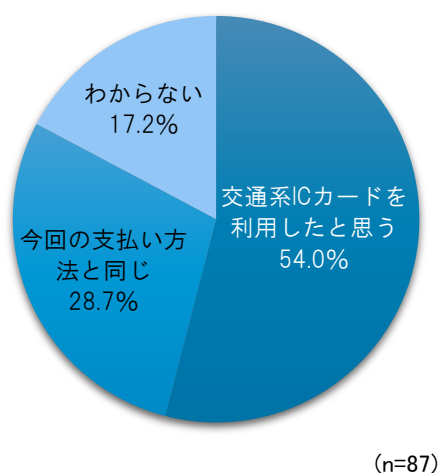
(4)スムーズな支払いの可否

- キャッシュレス利用者については約 9 割が「迷わず手早くできた」と回答している



(5)交通系 IC カードの利用意向

- 支払い方法として交通系 IC カードの利用が可能だった場合には、半数以上がそちらを利用したと回答している。

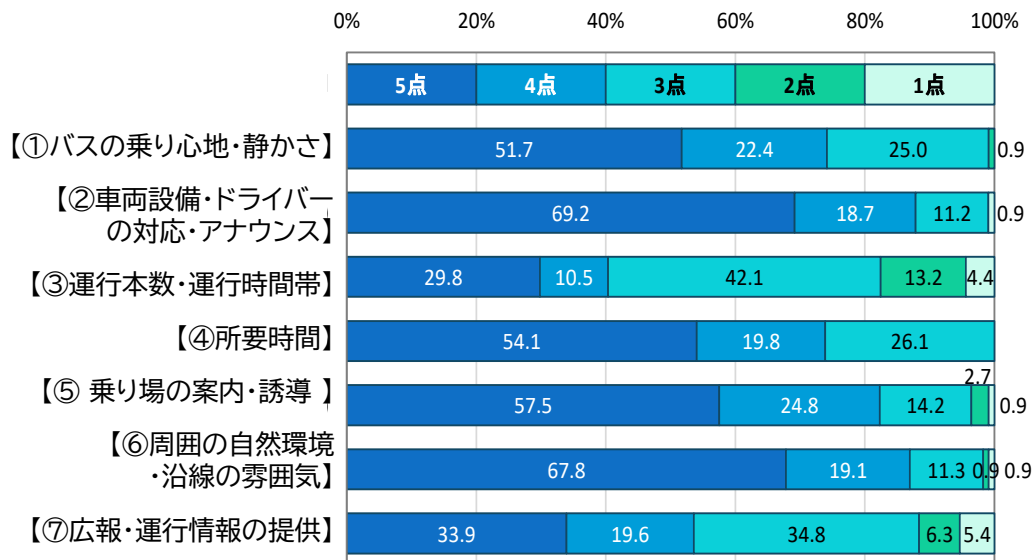


3.2.4 周遊バスに対する評価

(1) 項目別の評価

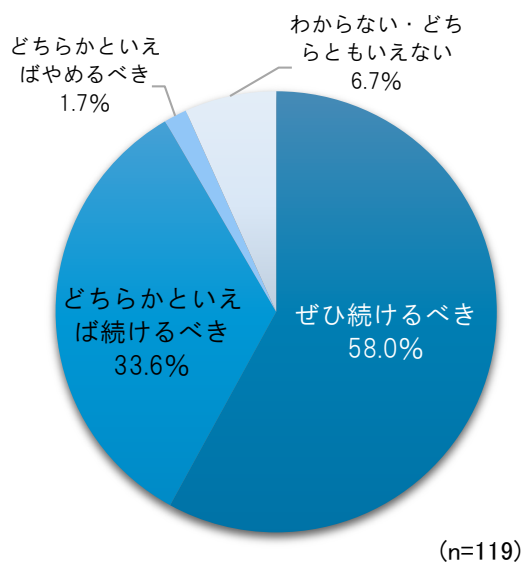
○「②車両設備・ドライバーの対応・アナウンス」が最も高い平均評点 4.55、次いで「⑥周囲の自然環境・沿線の雰囲気」が 4.52、「⑤乗り場の案内・誘導」が 4.35 となった。

○逆に最も低かったのは、「②運行本数・運行時間帯」で 3.48 となった。



(2) 今後の継続に対する賛否

○「ぜひ続けるべき」58.0%「どちらかといえと続けるべき」33.6%、合わせて 91.6%が継続意向となった。



(3)自由意見

- 2 時ではなく 4 時くらいまでほしい。味わい工房と連携して集客をしたらよい。ビアガーデンみたいなの。
- JR、駒ヶ根駅でポスターなどを使いアピールをしたほうがよい。
- あれば便利ですが、周知がいまいちかと思いました。
- オープントップバスに乗車できたのはよい経験だった。
- かんでんパパにもほしい。
- このバスのおかげで養命酒見学ができてよかった。
- このバスのことをこの地に来るまで知らなかった。私の情報を探す力がなかったのかな？来る前に知っていたらもっと効率的に利用していたと思う。ぜひ続けてください。なくさないでほしい。
- こまくさ橋に犬や鳥のフンがたくさん落ちている。
- タクシー代わりでありがたい。お財布にもやさしい。
- てくてく MAP で散策しようとしたけど熊がでて危険ならバスで行くしか無い。ばすがあってよかった。行きたいところに行けてよかった。ありがとうございました。
- どうしても案内やガイドがいなくて面白みがない。光前寺などガイドがいれば良いと思う。花めぐり里めぐりバスの方が人気がありました。
- とても楽しい旅行のようでした(市内住み)。市内・県外にもぜひPR していただき乗車する人が増えると嬉しいです。
- とても楽しかったです。運転手の方が気さくな方でよかった！ありがとうございました。
- とても楽しく景色も楽しめました。今回は時間がなく駒ヶ根ファームスと養命酒でしたがこのバス停を利用したいと思いました。
- ドライバーさんのアナウンスが前の方にしか届いていないようでもったいない。マイクを付けてはいかがでしょう。
- ドライバーさんの案内が足りない。
- ドライバーの方の周辺見所や観光施設の案内が、くどくなく程よい説明でした。道路環境への注意の説明も心配りが行き届いていらしゃったです。
- バスのアナウンスに加え、運転手の方のトークがわかりやすく駒ヶ根高原について勉強になりました！地元の子供達も夏休みにバスに乗るだけでも良いので利用してくれると良いなと思います。乗車してくれた子供に小さなオリジナルステッカー（広告費を何処か削って安価に制作）プレゼント配布とかどうですか？誰かが持っていると欲しくなるので、それだけで宣伝になるのでは？
- バス乗り降りの段差を考えほしい。
- バス停と本数を増やしてほしいです。
- ホテルで教えてくれず、タクシーしかないと言われた。知っていればタクシー代払わず済んだ。ネットでも見つけられずもっと広報してほしい。
- もう少しバス停を増やしてはどうでしょう。
- もっと宣伝したほうがよいと思います。
- もっと宣伝すべきです。
- リゾートリンクスなどにチラシを置いてあれば観光に来た方はもっと楽しめそう。他の宿泊施設にも。みんなにもっと知ってもらうことが大事かと。市内の人間ですが便利で楽しめた
- ロープウェイの待ち時間が長すぎる。
- ロープウェイの待ち時間が長すぎる。周遊バス非常に良いと感じたのでぜひぜひもっと本数を増やしてほしい。ロープウェイ線が途中で乗れない様子だったのでどうかしてもらえればと思う。

- 一箇所ずつみんなで立ち寄って観光したほうが良い。
- 雨のため楽しめなかった。もう1回お天気のいいときに来たいと思いました
- 運行本数を増やすともう1箇所多く回れていいと思います。また、もう少し早い時間から運行していただくと時間を有効に使えていいです。
- 各バス停での停車時間が15分ほどあれば1日乗車券を買って各バス停のお店をみたり買い物できたのになあと思いました。11月も運行してくれていたらもっと利用したかったです。ありがとうございました。
- 楽しみにして乗りました。もう1回乗りたいと思いました。
- 観光スポットを複数箇所巡れる良いツアーだと思いました。見学先の滞在時間も考慮されており、バスの運行時間も使いやすかったです。土日や観光シーズンに使用するのには非常に便利だと感じたため、継続的な運用のためもう少し価格は上げていいのではと感じました。
- 近くに住んでいても観光したことがなくて今回アナウンスなどの案内があったりでとてもわかり易く良かったです。楽しい旅でした。
- 近場ではなかなか足を運ぶ機会がなかったが、知らなかったところに行けてよかったです。リフレッシュしました。
- 駒ヶ根ファームスでどんぐり沢山ひろえて嬉しかった。バスの運転手さんと話せてよかった。バスも天井が空いていてカッコよかった。
- 駒ヶ根駅にも行ってほしい。無理ならカインズあたりでもよいが。
- 駒ヶ根駅にも停車してほしい。
- 見どころが多いバス停や昼食時間のことを考えるともう1本便があってもいいのかな？と感じました。バスの運転手さんも優しく、とても良い時間を過ごすことができました。
- 工場見学、竜東見学も企画してください。
- 今以上に宣伝や広告、紹介や周知をして欲しいと思います。
- 今後も利用したい。子供関係の施設があれば良いと思った。
- 財政面でも大変でしょうが、あと2本追加されるととても利用しやすい。
- 桜の季節は上伊那の周遊ができれば、運賃は高くなると思うが素敵だと思う。昔のこまちゃんバスのように駒ヶ根市内、広小路とか停まるとお年寄りや車に乗れない方にとってバスは助かると思う。
- 子どもたちが楽しんで乗れました。ありがとうございました。
- 市外の方への宣伝を大いにして、もっと多くの方の利用があることを望みます。
- 車では目的地だけしか行かないけど、周遊バスだといろんな風景が見れてgoodです。
- 周遊バスの存在を知らなくて、行って初めて知りました。続けてほしいです。もっとしっかり利用したかったです。
- 周遊バスは旅先であれば利用しています。大人向けかなと思います。車で来ない人にはありがたいです。
- 心地よい旅ができました。ありがとうございました。
- 人が多い日限定でもいいのでぜひ続けてほしいです。
- 他に乗客が居なく、良い内容なので他の皆にも乗って欲しいと感じた。個人的にはどこか1,2箇所15分程停まるのもアリかな？と感じた。どの停留所も交通の便が、悪そうなので、駅や宿に停留所があってもよいのでは？と感じた(デメリットもあると思いますが)。天井が窓のバスも良かった。
- 地元のものですが、バスの移動がとても楽しかった。日頃のることが無いので。

- 天窓が素敵エですが日差しがとても暑かったです。
- 発車したあとにも関わらず乗せていただき助かりました。車内の運転手さんの説明もよかったです。
- 普段バスに酔う方なので大丈夫かなと思ったけど風を受けられて酔わなかったのが楽しかったです！
- 風景が美しくとてもよかったです
- 平日は毎日じゃなくてもいい、月ごとに変えてもらってもいい。春から秋までならとてもいい。
- 便数を増やしスーパーなどにもバスが行くようにして地域の人々の足になるようにしたいと思います。
- 歴史、文化、自然に触れることができ、とてもよい地域めぐりができました。

4. 施設ヒアリング調査

4.1 調査の概要

(1) 調査の目的

山麓周遊バスの立ち寄り先施設に対して、観光事業の状況、バスの運行に対する感触や今後の意向などを把握するために、ヒアリング調査を実施した。

(2) 対象施設

下記の3箇所に対して実施した。

施設名	業態	訪問日時
養命酒 駒ヶ根工場	酒類製造・販売	2023年12月22日 (金)14:00
ビアンデさくら亭	レストラン・土産店	2023年12月26日 (火)13:00
北川製菓	菓子製造・販売	2024年1月15日 (月)10:00

4.2 調査結果

4.2.1 養命酒 駒ヶ根工場

(1) 当地での観光関連事業の現状について

1 施設の沿革・施設内容など（昨年度ヒアリングの内容をベースに加筆）

当工場は1972年に開業。設置の選定理由としては、良質な水が得られることが大きかった。2006年には「養命酒健康の森」としてショップ&カフェの営業も開始。2021年には「くらすわ駒ヶ根店」としてショップ&ベーカリー&カフェでの営業も開始した。

くらすわ駒ヶ根店は「美味しく・楽しく・すこやかに」をコンセプトにしており、美味しさやすこやかさにこだわったオリジナル商品をそろえたショップと、粉から手作りする焼きたてのベーカリーとなっている。

そのほか、工場敷地の森林を活かした散策路を敷地内に整備している。また、現在リニューアル工事中であり、2024年の10月にグランドオープン予定である。工事が完了すると、工場とショップの区画を自動車（バスも含めて）行き来することが難しくなる。

2 工場見学の実施、観光客向け施設の拡充など

1972年の工場開設当初より、養命酒の製造工程を見ていただける工場見学を行っている。近年は施設見学のほかにも、スタッフがガイド・解説を行う複数のプログラムを展開している。

3 誘客案内など

ホームページのほか、facebook や Instagram での情報発信や広告、地域情報誌（月刊かみいな、週刊いな等）での広告が主である。

旅行代理店に対しては予約があれば受けているが、とくにリベートなどは発生していない。

工場見学やくらすわ駒ヶ根店の利用、森林散策などを通じて当社のイメージアップや商品購入につながっていると考えている。

(2)今年度の周遊バスの実証実験について

(1)に記した通り、現在、施設改修工事を行っており、やや動線などが変わり、さらに変わってくる予定だが、周遊バスの実証については、昨年と同じやり方で行うことができた。運行上の支障事項もとくにはなかった。

利用者数や利用パターンは、日によって変動があるため一概には言えないが、1便あたり1~2人というところだろうか。お客さんの動きとしては、まず工場見学をしてその後くらすわ(ショップ)のほうに移動して買い物や食事をする方が多かった

次の停留所まで歩いて行かれる方も散見された。

(3)今後の事業への協力の可能性などについて

(駒ヶ根市より説明)今年度は広告料ということで1.5万×4ヶ月=6万円で、温泉組合などにスポンサーを依頼して運用したところ。デザインなども事業所側負担とした。このようなやり方で協力の可能性などあるか。

⇒企業として広告は通常出すものであり、検討の余地はある。社内で協議しなくてはならないので2月くらいに回答する

4.2.2 ビアンデさくら亭

(1)施設概要について

1施設の沿革・施設内容など

元来は、飯島町で馬肉の輸入販売、馬肉料理レストランを営んでいる会社である。25年前に当地に、貸切バスの昼食休憩のためのレストランとして開業した。土産店も併設している。一般の方も飲食、買い物などは可能であるが、利用者の98%が貸切バスのお客さんである。

さくらんぼ狩り、ぶどう狩り、高遠の桜のツアーなどが多く、秋がピークである。施設の定員は400人で、コロナ前の最盛期は年間10万人の来客があった。

コロナ禍で利用者はだいぶ落ち込んだが、近年はようやく戻ってきたところ。それでもいま、コロナ前の7掛け程度で厳しい状況が続いている。

(2)今年度の周遊バスの実証実験について

利用者の方とそれほど話をしたわけではないのでわからないが、県外の方は早太郎温泉のホテルに宿泊して方が多い印象である。県内の方は当施設を拠点として利用した方も目についた。駐車場に自家用車を止めて、食事をしてからバスに乗る方などもいた。

周遊バスを利用して当施設を利用した方の数は、そこそこあったが、目立った入りはなかったという感じである。

バスの車両の取り回しなどは、とくに問題はなかったが、あるとすると降雨時に、貸切バスが入口の軒下にバスの乗降口をつけることがあり、そうすると周遊バスの車両の取り回しも少し煩雑になったりもするが、それほど多くはなかったはずである。

(3)今後の事業への協力の可能性などについて

この近辺では、ゼロ磁場(分杭峠)が引き続き根強いニーズがある。今回の周遊バスをつなぐ

必要があるかどうかは別だが、一般的なルートである伊那 I C から高遠経由でいくよりも、名古屋方面からであれば、駒ヶ根 I C あるいは駒ヶ岳スマート I C から中沢経由でいったほうが近いというメリットもある。

スポンサー協力については、前述の通り、貸切バス業界は、まだ利用者が戻りきっていないため、当面は難しいと理解してほしい。

4.2.3 北川製菓

(1) 施設概要について

1 施設の沿革・施設内容など

北川製菓は、ドーナツの製造を主力とした食品製造業で、大手スーパーのプライベートブランドなどの委託製造が多い。パッケージのウラ面を見ると、会社名が載っているものも多いと思われる。

このショップは工場併設のショップで、10 年前にオープンし、アウトレット品などが人気となっている。

通常の利用形態としては、マイカーで訪れる一般客が多いが、3 割くらいは観光バスの立ち寄りとなっている。コロナ明けの昨年 6 月で月に 50~60 台のバスツアーが立ち寄った。フルーツ狩りのバスツアーが多く、春はいちご、さくらんぼ、秋はぶどうが多い。ツアーの客などには、規格外の商品などを袋に詰め放題というのが人気で、500 円で提供している。

マイカーで訪れる客は県内で地元というよりは、松本や長野など、少し遠めのお客さんで、まとめて購入されていく方が多い。

(2) 今年度の周遊バスの実証実験について

今回の周遊バスの運行では、それほど多くの来店があったというわけではないが、一定数の利用はあった。周回のダイヤに比較的余裕があったようで、当店の前で 5 分程度、待機時間がとられることが多かった模様である。

そのため、1 日券をお持ちの方は、その間にちょっと降りて、商品を買いたい方もいた。主な目的地は養命酒というお客さんが多かったようである。

当店の前で、1 回 U ターンするルートになっていたが、とくにトラブルなどはなかった。

北川製菓では、工場見学もやっているが基本的には個人単位での見学は受け付けていないため周遊バスのお客さんにとっては、この店舗での買い物をするくらいのことしかできない。ここで降りても、次のバスまで時間をつぶせるというほどの規模のものではないため、少し買い物をしてから、次のバスを待たずにマルスウイスキーやこまくさ橋方面まで、徒歩で移動されるというパターンが多かった。店員に「歩けますか」という質問される方もいた。

(3) 今後の事業への協力の可能性などについて

今年度の事業では、月に 1 回ずつ、北川製菓から利用者へのプレゼントを提供したが、そういうかたちよりは、1 日券を提示したお客さんに割引をするというようなほうがやりやすいと考えている。また、広告スポンサーについても、検討の余地はある。

5. 運行事業者ヒアリング調査

5.1 調査の概要

(1) 調査の目的

山麓周遊バスで使用した車両や運行期間の状況等を把握するために、運行事業者からの聞き取り調査を行った。

(2) ヒアリング対象および方法

こまくさ観光 株式会社

2023年12月1日(金) 9:30～ 駒ヶ根市役所会議室にて

岩本社長より聞き取り

5.2 調査結果

(1) 使用車両の概要

当初より、オープントップバスというのを走らせたいという考えがあったが、オプション装備も含めて市販車ではなく、レンタルなども探したが、妥当なものが見つからなかったため、一般のマイクロバスを新たに改造することにした。改造費は1,500万円で、国のコロナ禍後の事業再構築補助金を活用し、2/3が補助された。

メーカー側としても前例がなかったようで、費用的にはかなりかかったが、ある程度満足のもののできた。ポリカーボネート製の天窗で、手動式であるが、1～2分で開閉することができるようになっている。

(2) 許認可について

実証運行の位置づけで、21条の許可を取得した。手続きには通常よりも長く、4ヶ月ほど掛かった。

(3) 事業費

運行費は期間合計600万円で、このうち1/2が駒ヶ根市地域公共交通協議からの補助を受けた。

(4) ルート及び運行状況（支障箇所など）

ルートは駒ヶ根市と一緒に検討し、今年度はこのようなかたちでの運行を行った。ダイヤもある程度余裕をみていたため、概ね支障なかったが、土日は北原交差点で多少混み、北川製菓への到着が2～3分遅れるということはある。利用者から「バスが来ないが」という問合せも僅かではあるが、あったようである。

停留所については、基本的にすべて施設の敷地内あるいは道路から外れた箇所に設けたため、スペースも広く、とくに問題なかった。

(5) 来客方面

関東方面からの来客が多かった印象である。高速バス停で降りて、歩いてビアンデまで来る人もいた。ご夫婦などが多く、逆に子どもは少なかった。地元の保育園にチラシなどは配布したが、それほど効果はなかったようである。

平日は利用が少なく、1人も乗らないという便もあった。立ち寄り施設の定休日との関係もあり、2軒が定休という日などは利用価値が低かったと思う。1日券を買ってくださった方には申し訳ないという気持ちになった。

天候との関連もあり、ロープウェイが運休になった日は利用者が多かった。

便ごとの状況としては、1～2便の利用が多く、3～4便は少ないうえ、1日券についてはその時点からはほとんど売れなかった。

利用のパターンとしてはビアンデ、ファームスから乗り、養命酒に行くというパターンが目立った。長野県内の方は自分の車をビアンデに停めて、そこから乗るといった人もいた。

(6) 運転手の体制と観光案内

今回は5人のドライバーで回した。岩本社長が最も多く、全体の3割程度を担当した。今回の周遊バスについては車内で観光案内をしたことが特徴的で、社長自身が基本的な台本を考え、ある程度、お客さんの反応などをみながら柔軟に喋るようにした。

手応えは比較的良かったと感じており、沿道には「アサギマダラの里」があるが、この蝶が海を渡る話などは興味深く聞いてもらえたように思う。

(7) 利用者からの要望

さらに時間帯を長く、便数を多くというものが多かった。駒ヶ根駅まで行きたいとか、かんでんぱぱガーデンまで行きたいなどの要望もあった。

(8) 今後に向けて

始発を早く、便数を増やすことで利用のバリエーションも増え、利用者を掘り起こせると思う。今年はビアンデを周回の区切りのポイントとして5分くらい停車していたが、ここで停めてもそれほどやれることがあるというわけでもないため、菅の台の駒ヶ根ファームスにするのがよいのではないか。ソースカツ丼のガロ、ルビー（赤そば）の里、こまゆき荘、二人静など、ニーズがあると思われる。

また、会社側の体制としては、今年度のダイヤだと、別事業として運行している高遠高校の通学バスの合間でやれたため効率がよかったが 上記の内容でやろうとすると、恐らく、会社の人員繰り自体を大きく変えなくてはならないため、そのあたりの検討も必要となる。

6. 今年度事業の総括と今後の課題

6.1 今年度事業の総括

今年度と昨年度の実証運行の違いは、大きく次の3点といえる。

- ①：昨年度まで実施できなかった有償運送事業を行ったこと。
- ②：昨年度は2週間の短期間だったのに対し、今年度は夏から秋の行楽シーズンを通じて4ヶ月間通して行ったこと。
- ③：昨年度は地域の自然環境などに配慮したEVバスであったのに対し、今年度はガソリンエンジンのマイクロバスで運行したこと。ただし、オープントップのバスであり、地域の自然をより楽しめるという点での特別感があった。

その他に、起点を駒ヶ根 IC 近くのピアンデさくら亭としたこと、北川製菓を停留所に加えたこと、運行時間帯を早めたことなども挙げられる。

昨年度は市内の小中学校向けに配布したチラシの効果が大きく、無料のEVバスというものの自体を見に来る地元の子ども連れが多くみられた。加えて、これが短期間に凝集されたこともあり、1日あたりの乗降客数は49.4人と非常に多かった。一方、今年度もチラシの配布は行ったものの、昨年度のような見学利用は少なく、1日あたりの乗降客数は10.3人と1/4以下になった。しかしながら、利用者の実態をみると、早太郎温泉の旅館などに宿泊した夫婦が山麓の施設を周遊して楽しんでくれたというようなケースが多く、これは実証運行の本来の目的に沿ったものであり、有意義な実証ができたものと考えられる。

初めて有償運送で実施したが、これに併せて導入した1日券の利用が半数近くを占め、周遊滞在に大きく寄与できたものとみられる。また、支払い方法はキャッシュレス決済にも対応させるべく導入したQRコード決済も、さほど利用は多くなかったとはいえ(16%)、利用した方からはスムーズな支払いができたという回答をもらっており、効果があったものと考えられる。

利用者からの評判は全般に良かったものの、運行本数に対する満足度が他項目と比べて低かったことが課題といえる。周遊型のバスであり、目的地まで向かう便と戻る便と、少なくとも2回乗る必要があることを考えると、第3便までには乗り込まないと周遊利用ができず、全4便というのは少ないといわざるを得ない。また、自由意見には周知が不十分という意見が多くみられた。

沿道の観光関連事業者も比較的好意的に受け止めてくれており、スポンサー料の拠出までは難しいかもしれないが、次年度以降もそれなりのサービス提供に協力してもらえそうな感触は得られた。

運行事業者も運行ルートや時間設定などに問題なく、引き続きの運行は可能という意向を示している。

事業採算性に関しては、全国的にみて都市部の一部のバス路線を除けば、運賃収入で事業費を賄うことは極めて困難である。したがって、採算性に固執する必要はほぼなく、このような仕組みにより、来訪者の利便性の確保や地域の賑わいの創出につながれば十分に価値があるというのが、昨今の地域公共交通の分野における一般的な考え方となっている。

なお、本事業のような観光地でのバスは一般の生活エリアのコミュニティバスよりも高めの運賃設定でも差し支えないものと考えられる。またスポンサー収入についても、これを財源として活用することは重要であるが、財源というよりはむしろ、地域企業と連携して運営している事業である、ということを経営するとことの意義のほうが大きいものと考えられる。

6.2 今後の課題

本事業のような観光周遊バスの新規運行というものは、周知に時間が掛かるため、数年の実証で判断を下すのが難しい部分も多い。今後もPRを続けていき「駒ヶ根山麓には何か周遊バスが走っていたな」という認識をリピーターや地域住民などの間に徐々に高めていき、将来的な利用に結びつけるというプロセスが必要といえる。

したがって、「本格運行」という位置づけに切り替えることを急がず、利用者ニーズを探り、運行パターンなどを変更しながら実証を重ね、引き続き様子を見ていくというスタンスが適しているのではないかと考えられる。

次年度に向けては、まずは便数の増加とPRの強化が最重要事項といえ、ここに注力しながら次年度運行を検討していくことが必要である。便数の増加については、今年度の運行事業者であるこまぐさ観光(株)においては、既存の他業務との兼ね合いもあり、人員繰りが難しいという話もあった。昨今は業界全体として運転手不足が深刻となっており、イレギュラーな事業に対して、その時期にだけ人を確保することが難しい状況もあるため、早い段階からの事業者との調整が重要といえる。

R6駒ヶ根山麓周遊バス実証実験（案）

資料2

運行時期：7月1日（月）～12月1日（日）

有償運行：1乗車500円・1日券1,000円（小学生以下無料）

車両：オープントップバス 最大24人乗り ※裏面参照

運行ルート・停留所・ダイヤ案

※R5年度変更箇所

1周走行距離 約20km

	第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便	
1 駒ヶ根ファームス	10:10	11:10	12:10	13:10	14:10	15:10	発着
2 大沼湖	10:13	11:13	12:13	13:13	14:13	15:13	
3 大沼湖	10:14	11:14	12:14	13:14	14:14	15:14	
4 光前寺	10:17	11:17	12:17	13:17	14:17	15:17	
5 光前寺	10:18	11:18	12:18	13:18	14:18	15:18	
6 露天こぶしの湯	10:22	11:22	12:22	13:22	14:22	15:22	
7 露天こぶしの湯	10:23	11:23	12:23	13:23	14:23	15:23	
8 養命酒駒ヶ根	10:34	11:34	12:34	13:34	14:34	15:34	
9 養命酒駒ヶ根	10:35	11:35	12:35	13:35	14:35	15:35	
10 ビアンデさくら亭	10:46	11:46	12:46	13:46	14:46	15:46	
11 ビアンデさくら亭	10:47	11:47	12:47	13:47	14:47	15:47	
12 北川製菓	10:54	11:54	12:54	13:54	14:54	15:54	
13 北川製菓	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:55	
14 マルス信州蒸留所	10:57	11:57	12:57	13:57	14:57	15:57	
15 マルス信州蒸留所	10:58	11:58	12:58	13:58	14:58	15:58	
16 こまゆき荘	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
17 こまゆき荘	11:01	12:01	13:01	14:01	15:01	16:01	
18 ぴんころ神社	11:03	12:03	13:03	14:03	15:03	16:03	
19 ぴんころ神社	11:04	12:04	13:04	14:04	15:04	16:04	
20 駒ヶ根ファームス	11:06	12:06	13:06	14:06	15:06	16:06	

【参考】

- ・駒ヶ根IC 高速バス新宿～飯田線 毎時35分着（11時以降） 毎時50分発
- ・RW線（しらび平→駒ヶ根駅） 菅の台BC 毎時22分、52分着
RW線（駒ヶ根駅→しらび平） 菅の台BC 毎時12分、42分着
- ・養命酒 営業時間 ～16：30 マルス信州蒸溜所 営業時間 ～16：00

【ポイント】

- ・ビアンデさくら亭を高速バスとの結節点としてバスの発着に合わせている
- ・駒ヶ根ファームスをRW線との結節点として発着、特に山から下りてくる時間に合わせている
- ・お土産、飲食、お酒、お菓子、工場見学、寺、温泉、自然と多ジャンル
- ・メインターゲットは、宿泊登山客の前泊日、後泊日の観光
- ・発着点をファームスにすることで、利便性の向上

【車両】

- ・小型バスを改造した天窓開閉式のオープントップ
- ・車体には、スポンサー企業をラッピング
- ・バス停もスポンサー企業募集予定
- ・キャッシュレス決済可能（PayPay、d払い、auPAY、メルペイ）
- ・自動音声案内による観光ガイド

【広報】

- ・市報、市HP、市LINE・メール、地域誌など
- ・SNS（インスタ・Facebook）を活用




【今後のスケジュール】

2月7日	交通協議会にて方針案の提示
3月下旬	交通協議会においてR6年度予算協議
4月中	運輸局申請
6月中	運行業務委託契約締結
7月～	スタート

送迎ボランティア「中沢オーライ」 出発進行!

「中沢オーライ」のご案内

「中沢オーライ」は中沢区と中沢支え合い推進会議が運営する 完全ボランティアによる、マイカーと福祉車輛での送迎互助活動です。中沢区在住の交通弱者(70歳以上)の方で、中沢オーライの会に利用申し込みされ、承認された方ならご利用になれます。

タクシーとは違いますので行き先は  印の場所のみとなりますが、大勢の皆様のご利用をお待ち申し上げます。

けやき診療所

マルモ商店

カツパ直売所

天野歯科

木下医院

中沢農協

郵便局

中沢支所

東伊那農協

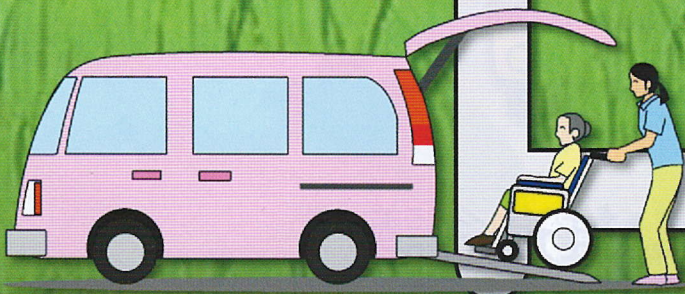
すこやか
クリニック

湖北堂

福祉車両による車椅子の送迎もできます。

詳細は裏面を
ご覧ください

亀群



送迎ボランティア「中沢オーライ」利用について

1. 中沢地区が住みよい地域になる一つとして、中沢区と中沢支え合い推進会議が運営するマイカーと福祉車輛の送迎 互助活動です。ご理解の上ご利用下さい。
2. 利用者は中沢区在住の交通弱者(70歳以上)とし、中沢オーライの会に、利用登録を申し込み承認された方です。
3. 都合により、軽トラ等での送迎もあります。ご理解とご協力をお願いします。
4. 利用範囲は、・医療機関・買い物・役所・等予め決められた箇所への往復とし、送迎は自宅から目的地間とします。
5. 2日前までにご利用を下記に連絡頂きます。双方が合意すればお迎えに上ります。
6. 利用登録他、ご不明な点は下記にお問い合わせください。

問い合わせ先 中沢支え合い推進会議

中沢オーライ

班 長：宮脇 三広 [TEL 090-1612-6396]
事務局：奈須野博仁 [TEL 090-4365-2733]
唐沢 泉 [TEL 090-4462-4458]

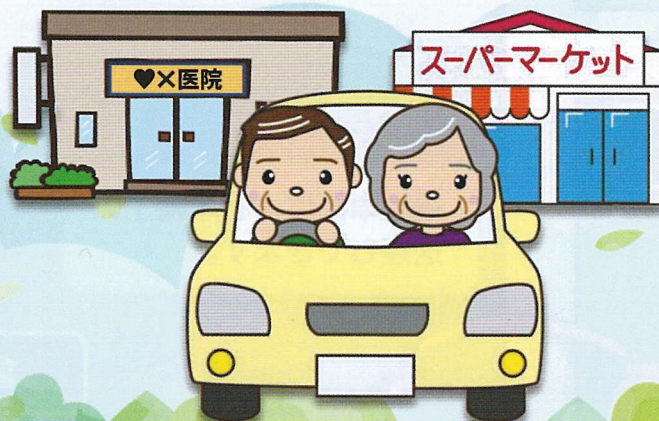
活動期間・時間

年末年始(12月29日～1月3日)
土(午後)、日、祝祭日を除く通年
概ね午前8時から午後4時まで

運転手
さん

中沢オーライボランティア募集！

ご協力いただける方は上記、事務局へ
ご一報ください。



中沢支え合い推進会議

高齢の方、体の不自由な方、 生活にお困りの方々をお助けします 「ちょこっとお助け東伊那」 発足へ！

ささやかでもできることで助け合える優しく温かな東伊那をめざして！



東伊那支え合い推進会議

支援の内容

●外出支援（通院付き添い・買い物同行・その他同行）

*但し、活動範囲は竜東地区を中心に下平地区の一部までです。

火山直売所・すこやかクリニック・マルトシ東伊那店・東伊那郵便局・東伊那支所公民館
竜東メンタルクリニック・やまんだ直売所・天野歯科・かっぱ直売所・JA 駒ヶ根東支所
けやき診療所・木下医院・マルモ柳屋商店 の13カ所

●家庭支援（整理整頓・買い物・ごみ出し・傾聴等）

●環境整備（草刈り・草取り・庭木の手入れ・住宅等の軽微な修繕等）

●電気通信関係（家電修理・パソコン携帯の取り扱い等）

●その他（日常生活上必要とする支援で、本会が適当と認めるもの）

利用申し込み

①「なんでも相談所」へ

（マルトシ東伊那店前、毎週木曜日10:00~12:00）

② 各地区の民生児童委員へ

③ 各地区の「サロン」や「通いの場」へ

⇒ 担当が訪問し、支援の内容や時間等を確認し、対応します。



費用負担

- ① 作業時間 ・30分まで 500円/1人 ・1時間まで 1,000円/1人
・1時間~2時間 2,000円/1人（2時間以上の作業はできません）

② 材料費等は、その実費相当額を負担していただきます。

③ 特殊なケースは、

利用者と協力会員双方の合意で決めます。

問い合わせ先	東伊那支え合い推進会議
久保田逸巳	090-4159-6146
新井 幸徳	090-5325-0141